

ガン類、ハクチョウ類、トキをシンボルとした生きものが住みやすい環境づくりを進めながら、地域の人々の暮らしも豊かにしていくことを目指した取組です。

- 信濃川や阿賀野川を生態系ネットワークの「軸」とし、潟や湖沼、農地等を「拠点」として、これらをつなぎ、健全な生態系を維持し、生物多様性を保全します。
- 生態系ネットワーク形成に向けた取組により、人々と自然の触れ合いの機会の増加や、地域活性化、新たな経済価値の創出などが期待されます。

全体構想

基本理念

越後平野におけるガン類・ハクチョウ類・トキが舞う地域のにぎわいを目指して

基本方針

- 1 生態系ネットワークの基盤となる水辺をはじめとした環境の保全・再生
- 2 良好な水辺等の環境を活かした地域の活性化

指標種（シンボル）



ガン類



ハクチョウ類



トキ

短期目標 2030年

- ◆ 指標種であるガン類やハクチョウ類、トキが生息する**水辺の保全・再生に必要な取り組みを検討・整理**し、生態系ネットワークの形成に向けた**流域の多様な主体との連携・協働体制の整備、取組機運の向上**を図る。
- ◆ あわせて、指標種が生息する**水辺を活かした地域づくりの取り組みが検討・試行**されている。

中期目標 2035年

- ◆ 行動計画に基づいて、指標種であるガン類・ハクチョウ類・トキが生息する**水辺の保全・再生に必要な取組が実施・推進**され、生態系ネットワークの形成が進みつつある。
- ◆ 多様な担い手の連携と協働により、**生態系ネットワークを活かした地域づくりも成果**を上げつつある。

到達目標 2050年

- ◆ 越後平野全域において、生態系ネットワーク形成によってもたらされる恵みにより、**持続可能で豊かさを実感できる、安心・安全な地域が実現**されるとともに、指標種であるガン類・ハクチョウ類・トキが舞い降りる**美しい河川、潟、水田などの水辺が日常の風景**であり続けることが、越後平野で暮らす人々の誇りとなっている。

行動計画（2035）

各取組主体が、2030年度（短期目標年度）および、2035年度（中期目標年度）を目標として実施することが期待される取組内容をまとめたもの

- 目標カテゴリーごとに、短期目標（2030年）、中期目標（2035年）および計画項目を設定
※計画項目の例）生息環境づくり：「調査・評価」「河川における環境整備」「農地における環境整備」など
- 指標種の特性を考慮した様々なスケールの生態系ネットワーク（局所的～広域的）に配慮
- 優先的に検討・推進することが望ましいエリアとして「優先的に取組む地区」を選定（9地区）
※特に「3：大阿賀橋・福島潟・瓢湖」地区から具体的な取組に向けた検討を進める
- 様々な主体の相互連携・協働を推奨
- 地域住民一人ひとりが生態系ネットワーク形成に貢献できるアクションも紹介
- 2030年度に中間評価、2035年度に最終評価を行い、次期行動計画の検討を行う予定



取組分野と目標カテゴリー

生息環境づくり

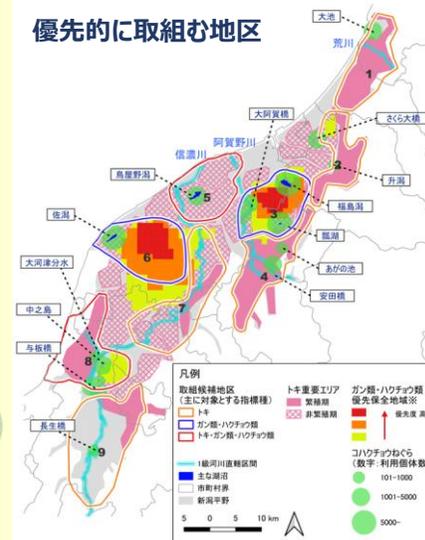
- ▶ ガン類・ハクチョウ類
- ▶ トキ

人・地域づくり

- ▶ 支援体制の構築
- ▶ 地域振興
- ▶ 広報
- ▶ 環境学習
- * 観光
- * 農業
- * その他

持続可能で安心・安全な国土づくりや地域づくり

優先的に取組む地区



凡例

- 取組候補地区 (主に対象とする指標種)
- トキ
- ハクチョウ/ハクチョウ類
- トキ・ハクチョウ/ハクチョウ類
- トキ重要エリア
- ガン類/ハクチョウ類優先保全地域
- 非繁殖期
- 繁殖期
- 優先度高
- 優先度低
- コハクチョウむぐら (数字・利用個体数)
- 101~1000
- 1001~5000
- 5000~